

振る舞いをリアルタイムに検知し、8,500台のPCを確実に管理 資産管理、構成管理、パッチ配信の一貫した仕組みを実現



LAWSON

株式会社ローソン

業種
小売業

従業員数
連結10,648人(2023年2月末時点)

本社所在地
東京都品川区

導入ソリューション
Tanium Core, Patch, Discover, Threat Response, Enforce, Asset, Deploy

Taniumの導入効果

- リアルタイムな振る舞い検知や、脆弱性へのすばやい対応が可能に
- 社内のソフトウェア利用状況を把握し、便利なアプリケーションストアを公開
- 社員がより安全で安心して業務に取り組める環境を整備
- インベントリ情報を活用した資産管理、構成管理

株式会社ローソン(以下、ローソン)は、2017年からTaniumを利用している。当初は振る舞い検知機能に魅力を感じ、EDRのための単体ソリューションとして活用し成果を上げる中で、Taniumのさまざまな機能の有効性に気づいた。現在は、資産管理、構成管理、パッチ/アプリケーション配信などの各種機能を活用している。

防御中心の対策から、侵入の可能性を前提とした対策へ

コンビニエンスストアチェーン大手のローソンは、グループ理念である「私たちは“みんなと暮らすマチ”を幸せにします。」の具現化を目指し、社会環境の変化に対応し続けている。そしてオフィス環境だけでなく、従業員の働くすべての場所をより良くし、安全に効率的に働けるようにするために、デジタルの活用にも積極的に取り組んできた。

同社が国内で運用するPCの数は約8,500台。全国各地の従業員が、日々の業務に活用している。

こうした背景から、PCのセキュリティは同社にとって重要な経営課題の1つとなっている。スーパーバイザーは、加盟店オーナーが運営する複数の店舗を担当し、外回りの仕事を中心。ノートPCを持ち歩くことになるため、脅威にさらされるリスクも相応にある。そのため、ウイルス対策やハードディスクの暗号化など、常に最新のセキュリティソリューションを導入してきた。

ITソリューション本部デジタルインフラソリューション部長の三木 義之氏は、「2016年当時は、防御を中心とする脅威への対策では不十分で、振る舞い検知の有用性が叫ばれるようになっていました。当社も、同様の方向性で時代に合った対策を取ろうと考え、EDRを導入して侵入の可能性を前提とした対策を行い、PCの安全性をより高めることになりました」と振り返る。



ITソリューション本部 デジタルインフラソリューション部長 三木 義之氏

Taniumを活用すれば、“何もなくても常に見えている”状態を実現できます。今後は情報の収集や分析に力を入れ、業務改善や働き方改革などにも役立てていきたいと考えています

ITソリューション本部 デジタルインフラソリューション部 部長 三木 義之氏

そこで、すべてのPCを対象とするEDRとして、2016年にTaniumのPoCを開始。TaniumのTAM (Technical Account Manager)の支援を受けながらさまざまな検証を行った。三木氏は「TAMの丁寧なサポートやアドバイスのおかげで本格運用の見通しが立ち、十分な成果を見込めました。PoCで作った環境をそのまま展開することで、運用をスタートできました」と話す。



ITソリューション本部 デジタルインフラソリューション部
マネジャー 大森 陽一郎氏

軽快な動作でPCのすべてを可視化

運用開始のタイミングで、全国のPCにTaniumを導入。使用中で、その良さを実感した。日々PCを使う社員にとって最大のメリットは、動作が軽いことだ。TaniumのエージェントがPCに常駐するが、他のアプリケーションに干渉して動作不良を起こしたり、常駐することによって動作が重くなると感じたりすることはない。一方、管理者にとっては信頼性が大きなメリットとなった。

ITソリューション本部デジタルインフラソリューション部マネジャーの大森 陽一郎氏は、「Taniumを利用する中で、この仕組みと認証基盤のユーザ情報を連携する事で、より正確な資産管理ができるのではないかと考えました」と話す。同社では台帳ベースでPC資産を管理していたが、たとえば異動の際にPCを持って赴任するケースなど、報告が漏れるケースもあった。今ではTaniumと認証基盤を連携することにより、PC利用者の最新の属性情報を資産管理に反映する事が可能になり、資産管理の精度を向上し、業務を効率化できた。またTaniumのインベントリ情報により、「まさに今、誰がログインして、どのようにPCを使っているか」がわかるため、管理上のPC利用者と、実態の乖離を正しく把握する事が可能となった。

Tanium独自のリニアチェーンを使ったアプリケーション配信機能にも魅力を感じた。それまでは配信にMECM (Microsoft Endpoint Configuration Manager)を使用していたが、Taniumを使うことで、すべての業務ツールのアップデート配信をすばやく確実に実施できる。また、Windows Defenderを常に最新の状態に保てるようTaniumで制御することも可能だ。

“何もなくても常に見えている”状態に

こうして、2022年にクライアントPCを刷新するタイミングで、Taniumの使用範囲を拡大。半年をかけた入れ替えて、8,500台のPCへのスムーズなアプリケーション配信が可能になり、資産管理もさらに進化させることができた。

中でも、PCにインストールされているアプリケーションを一覧できるようになったことは大きな進歩だった。ローソンでは、ユーザが使用したいアプリケーションを申請し、業務に必要であると認められれば許可される制度を取っていた。そこで、申請の多いものを「アプリケーションストア」に公開し、自由にダウンロードして使ってもらえるようにしたところ、現場のユーザから好評を得た。

また脆弱性にもすばやく対応できるようになった。「ソフトウェアの脆弱性の情報が出てきた時は、Taniumでそのソフトウェアを使っているPCが実際に何台あるのかを検索すれば、すぐにわかります。対象の端末にパッチ配信をするなど、すばやく対応できるようになりました」と大森氏は話す。

こうして同社は、振る舞い検知に加えて優れた構成管理機能を手に入れ、さらにパッチ管理によりOSを常に最新の状態に保てるようになった。アンチウイルスに関連するサーバも削減できたことで、コスト削減も実現。今後は、データ分析により高度な脆弱性管理を実現するほか、脅威への対応の自動化も推進したい考えだ。

三木氏は、「当初目指していたのは、“何かが起こった時に、何が起きたかを把握できる”ことでしたが、Taniumを活用すれば、“何もなくても常に見えている”状態を実現できます。今後は情報の収集や分析に力を入れ、業務改善や働き方改革などにも役立てていきたいと考えています」と語る。

お問い合わせ



タニウム合同会社
〒100-0004 東京都千代田区大手町2丁目6-4 常盤橋タワー25階

 <https://www.tanium.jp>
 jpmarketing@tanium.com